凡　事　徹　底

当たり前のことを当たり前に

蕨市立第二中学校
学校だより
令和５年度
第４号（７月号）

勝つのは本当に難しい

校長　椿　智絵

行事等が盛りだくさんだった６月があっという間に過ぎていきました。それぞれの行事をとおして生徒たちはいろいろなことを学んでいたと思います。

例えば、1年生の校外学習の事前学習では、ねらいを簡単にすると「①友達をたくさん作る、②仲間と協力する、③飯盒炊さん頑張る」だと私の考えを伝え、続けて「どれも一人ではできないこと。自分の意見をしっかり言ったり、人の意見をきちんと聞いたり、時には、我慢をしなければならないときがあるかもしれない。中学生らしく自分の頭でよく考えて、行動をしてください。」と話しました。

中学校で初めて行う大きな学年行事を成功させることができ、中学生としての自覚も高まったのではないかと思います。

このように、行事等は生徒が大きく成長できる良い機会になります。今後も充実した取組を進めていきたいと思います。

また、6 月には学校総合体育大会二市予選会、県南大会もありました。ここでも生徒は活躍していました。3 年生にとっては、負ければ引退という大きな意味のある大会です。どの種目でも選手は一生懸命、競技に向き合っていました。勝って喜び合っている姿、負けてしまって涙があふれている姿、頑張った生徒の姿にはいつも感動させられます。

試合を見させてもらいながら、思うことがあります。それは「勝つことはなんて難しいのだろう」ということです。自分のこれまでの経験を思い返してみても、「勝つ」のは難しかったです。

バスケットボール部に所属していた中学生の時は、県大会出場を目標に毎日毎日厳しい練習に取り組んでいましたが、市予選で 2 位になり、代表決定戦に進むことができましたが、そこまでした。

高校では、インターハイ（高校の全国大会）出場を目標にしていました。直前に行われた関東大会予選では、順調に勝ち上がり県 2 位で関東大会に出場しました。続くインターハイ予選では、決勝リーグには進めたものの、これまでは勝ったり負けたりと互角の相手ばかりでしたが、最後の最後、一番大事な試合は勝ち切ることができずに、敗退してしまいました。

大学の引退試合はインカレ（大学の全国大会）でした。前日 38 度の発熱で練習できず、当日熱は下がったけれども本調子ではないまま試合に臨みました。キャプテンでありながら体調管理ができずにチームに迷惑をかけてしまったことに申し訳ない気持ちで一杯になりました。

そして教員になり、バスケットボール部の顧問になりました。自分がプレーしている時よりももっと「勝つ」のが難しかったです。

最初の2年間は、一生懸命に練習はしたもののなかなか勝てませんでした。3年目、市で優勝できるようになり、草加との代表決定戦に臨みましたが、2 点差で負けてしまうという悔しい結果に終わりました。4 年目は県大会出表チームが 1 枠多い年で県大会に出場し、5 年目になってやっと草加にも勝てるチームになったと思ったところで異動。頑張っている生徒を残して異動しなければならなかったことがとても残念でした。

中学生の大会を見ていると純粋に「勝ち」にこだわってプレーする姿を見ることができます。勝負には「勝ち・負け」があり、勝ち続けられるのは 1 人（1 チーム）だけです。負けの方が圧倒的に多いのです。「負けに不思議の負け無し」と言われているように、負けた時には必ず原因があります。敗因を十分に分析・検討することが大切です。悔しさをバネに今後につなげられる人に成長してほしいと願います。

《学校教育目標》
自ら学び、深く考える生徒　（知）
心豊かで、思いやりのある生徒　（徳）
たくましく、健やかな生徒　（体）

蕨市立第二中学校
電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671
URL：http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/
e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp